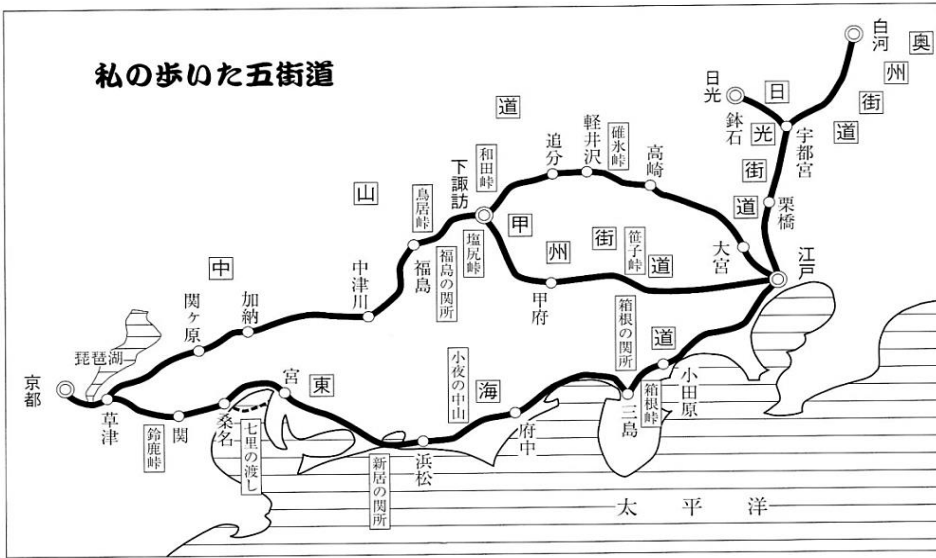
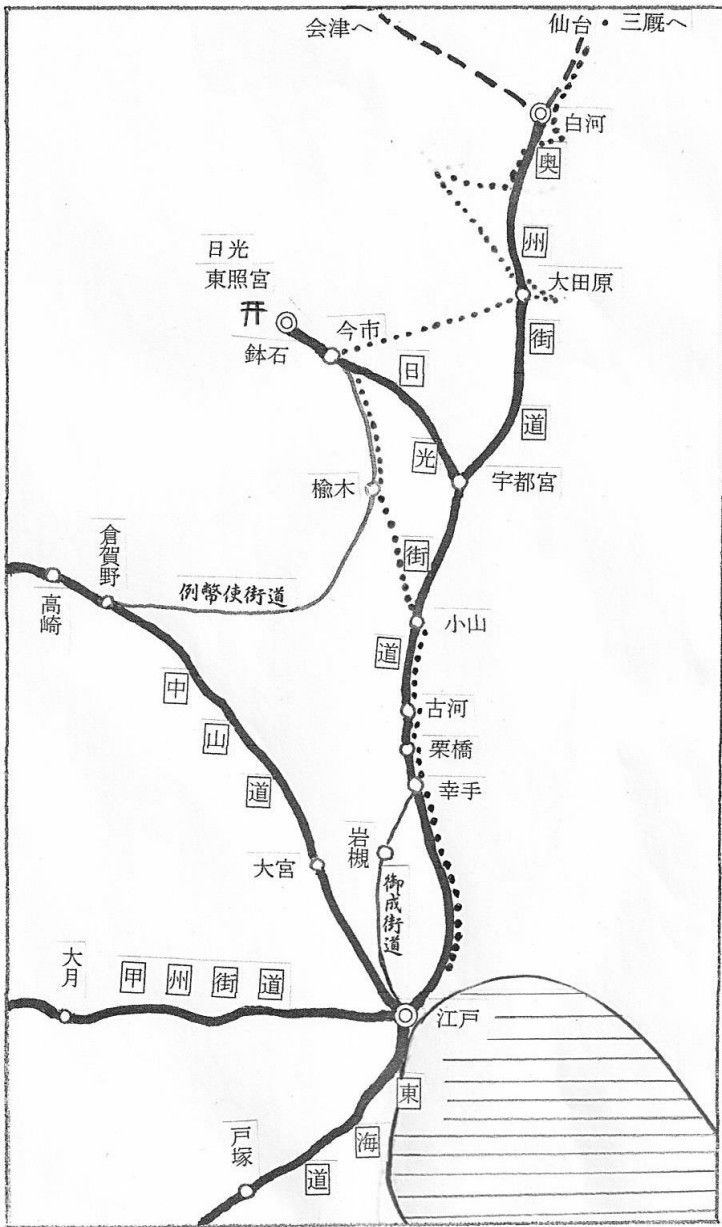


私の歩いた五街道（日光・奥州街道編）



- 東海道五十三次
一六里六丁(492km)
- 中山道六十九次
一三五里二四丁(534km)
- 甲州街道四十五次
五三里二四丁(210km)
- 日光街道二十一次
(日本橋～宇都宮～鉢石)
三六里三丁(142km)
- 奥州街道
(宇都宮～白河) 十次
二一里八丁(83km)



●●●●は芭蕉「おくのほそ道」のルート

1. はじめに

(1) 関ヶ原の合戦で勝利した徳川家康は、江戸を政治の中心とする都市づくりに着手すると同時に江戸へ通ずる街道の整備にとりかかった。先ず慶長6年(1601)に東海道に伝馬制度を設け、翌年にはこれを中山道にも実施、以降順次日光、奥州、甲州各街道へ拡大した。

五街道の宿駅・伝馬制度の拡充及び街道の維持管理は幕府直轄とし、公用役人や荷駄運搬の便を図った。

(2) 五街道の整備は寛永年間(1624～1643)ごろには相応の充実をみたと考えられるが、この時期はちょうど参勤交代の始まる時にあたる。

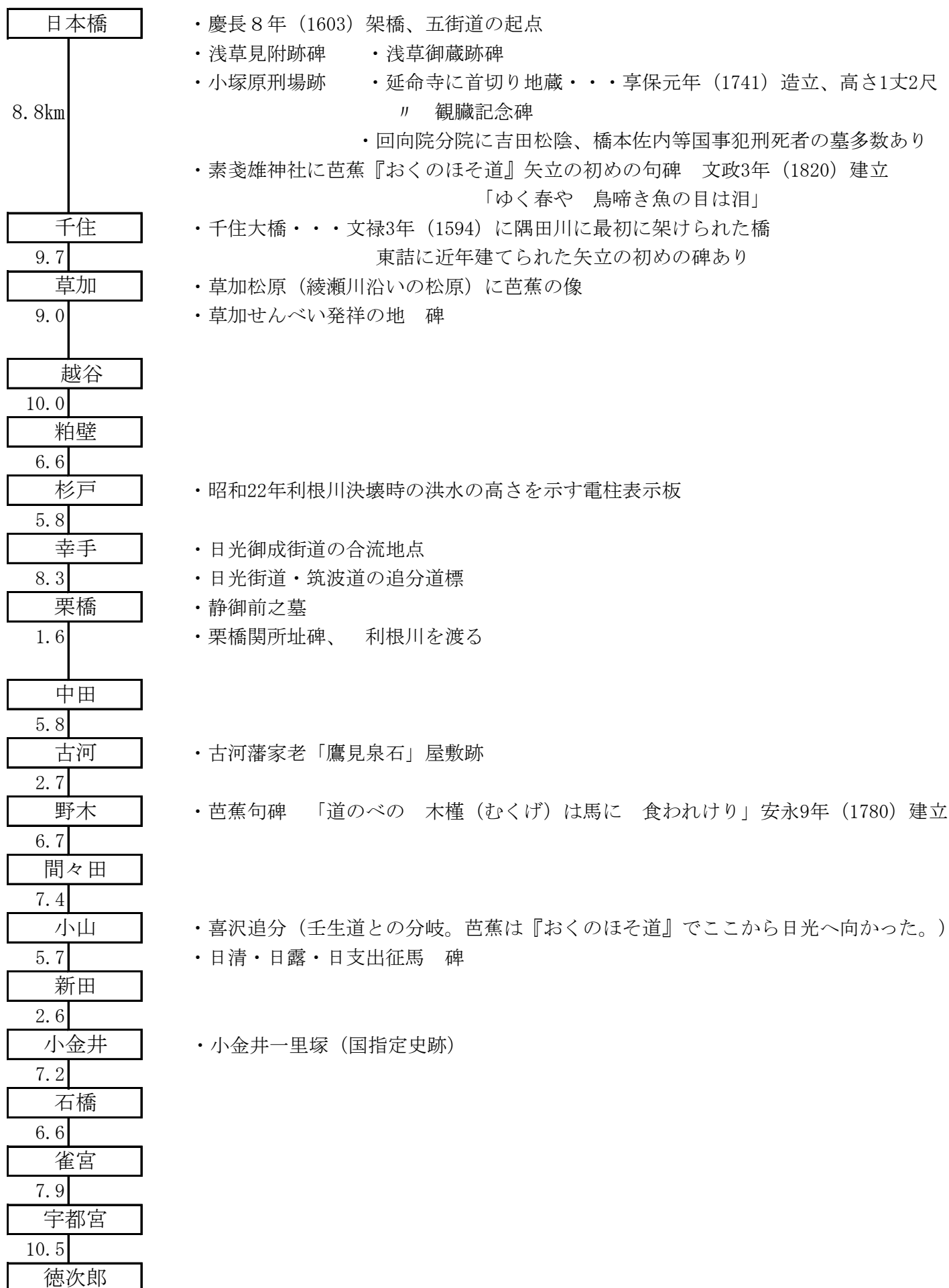
即ち、寛永12年(1635)の武家諸法度改正で翌寛永13年(1636)から外様大名に参勤交代が義務づけられ、寛永19年(1642)には譜代大名にもこれが義務づけられた。

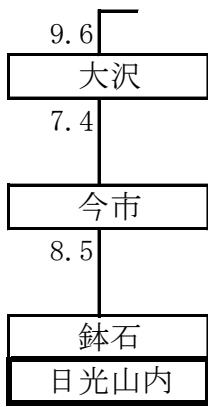
(3) 日光街道については、元和3年(1617)家康の廟所が久能山から移されて以降、引続き行われた東照宮の造営工事と祭礼、参詣で江戸と日光の往来は飛躍的に増加した。

また、三代将軍家光の要請により正保2年(1646)からは京都朝廷からの例幣使の参詣が毎年行われ、脇街道として日光例幣使街道が定められた。

なお、将軍の日光社参には江戸～幸手の間は日光街道ではなく別の経路(日光御成街道)がとられた。

2. 日光街道



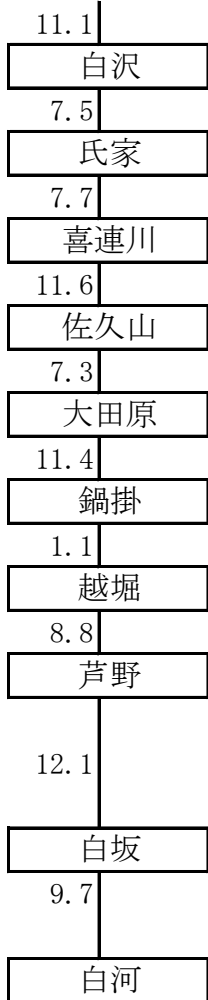


- ・並木寄進碑
- ・特別史跡・特別天然記念物 日光杉並木街道 碑
- ・追分地藏尊・・・例幣使街道が合流
- ・報徳二宮神社参道（栃木県史跡二宮尊徳翁之墓）
- ・砲弾打込杉
- ・板垣退助銅像、天海僧正銅像

3. 奥州街道

【宇都宮】

[日光街道と奥州街道の追分]



- ・街道沿いの旧家（元庄屋）
- ・建物の壁に那須与一の絵
- ・那須与一像
- ・奥州海道碑
- ・芭蕉句碑 「野を横に 馬牽き向けよ ほととぎす」 文化5年（1808）建立
- ・征馬之碑、殉役軍馬之碑
- ・富士見峠（海拔295.5m）
- ・遊行柳 芭蕉句碑「田一枚 植えて立ち去る 柳かな」寛政11年（1799）建立
- ・諭農の碑
- ・瓢（ふくべ）石
- ・境の明神（那須側に玉津島明神、奥州側に住吉明神） ・白河二所之関址碑
- ・白河古関蹟碑「寛政12年（1800）松平定信建立） ・古歌三首碑
- ・戦死墓（=会津藩士の墓） ・長州大垣藩戦死六名墓
- ・戊辰戦役仙台藩士の戦死供養塔 ・仙台藩士戊辰戦歿之碑
- ・小峰城遠望

(主要参考図書)

- ・「街道雑記 一私の歩いた五街道一」 佐藤猛夫 文芸社
- ・「今昔三道中独案内」 今井金吾 日本交通公社出版局
- ・「ちゃんと歩ける日光街道 奥州街道」 五街道ウォーク・八木牧夫 山と溪谷社
- ・「おくのほそ道全訳注」 久富哲雄 講談社学術文庫

